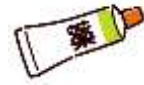


とびひ



“とびひ”の正式病名は「伝染性膿痂疹(でんせんせいのうかしん)」と言い、細菌による皮膚の感染症です。特に夏に流行し、接触によってうつって、発疹が火事の飛び火のようにあっという間に広がることから“とびひ”と呼ばれています。

とびひは2種類に分けられます。黄色ブドウ球菌に感染した場合は「水疱性膿痂疹」、溶連菌に感染した場合は「痂皮性膿痂疹」と呼ばれます。

- ・水疱性膿痂疹:水ぶくれができて、つぶれてびらんになることが多い

強いかゆみ

- ・痂皮性膿痂疹:赤く腫れて、厚い痂皮(かさぶた)ができる

発熱、リンパの腫れ

あせもや虫刺され・湿疹などをひっかいたり、転んでできたすり傷が化膿して、とびひになります。鼻孔(鼻の穴)の入り口には様々な細菌がいるので、鼻くそをほじるくせがあると、鼻の周囲からとびひが始まったり、その手であせもや虫刺されなどを触ることでとびひになります。また、ひっかいた手でおもちゃやタオルを触って、それを共有したり、一緒に遊んでいて患部を触ってしまったりすると、保育園でもうつることがあります。

とびひになってしまったら、出席停止期間の決まりはないので、病院で診察してもらって登園しても大丈夫です。(とびひは保育園で広がりやすい病気なので、園によっては登園できる条件を設けている場合があるので、保育園に確認して下さい) ただし、とびひは水ぶくれの中に含まれる滲出液で感染が広がるので、水ぶくれやびらんの範囲が広く、ガーゼや包帯などで覆いきれない場合やかゆみが強くてどうしてもかきむってしまう場合などは、お休みした方が良いでしょう。

病変部はせっけんを泡立てて、そっと洗い皮膚を清潔にしましょう。兄弟姉妹がいる場合は、ほかの子供たちが入浴したあとで入浴させる方が良いでしょう。入浴後は滲出液などが周囲に接触しないように、患部に軟膏を塗布したり、ガーゼなどの保護処置が必要です。

とびひになった場合、プールに入ってもよいか？

日本臨床皮膚科医会、日本小児皮膚科学会が共同で統一見解を出しています。

「自分の病変を悪化させたり、他人にうつす恐れがあるので、プールや水泳は完全に治るまでは禁止です」

プールの水ではうつりませんが、触れることで症状を悪化させたり、ほかの人にうつす恐れがあるので、プールや水泳は医師の許可が出るまで禁止して下さい。

